

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

#### 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

#### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

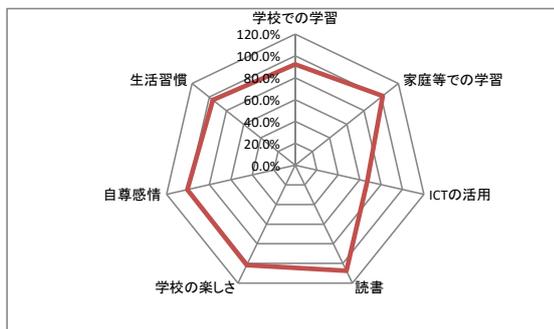
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 数学    |       | 理科    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 9.3   | 66    | 6.6   | 47    | 9.8   | 47    |
| 全国     | 9.7   | 69    | 7.2   | 51    | 10.4  | 49    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |   |                       |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 概ね平均的な数値であるが、「読むこと」などの思考力にかかわる分野において数値が下回っていた。特に、言葉の使い方に関する内容について苦手傾向にある。                               | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うこと、論理の展開に注意しつつ話を聞き取ることができている。   |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 表現の技法について、今回出題された技法も含め復習し、様々な表現方法を区別できるよう復習させる。   |                       |
| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 「数と式」の分野の正答率は高くなっていったが、全体的にやや下回っている傾向にある。特に「データの活用」「図計」の分野の正答率が低かった。特に、計算や証明などの問題に対して苦手傾向にある。           | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 自然数を素数の積で表すことができる。  |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。  |                       |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 知識・技能に関する内容に関しての正答率はやや上回る傾向にあるが、「生命」を柱とする領域の図や表から考察する問題に対して苦手傾向がある。日常生活の中の自然現象を図やグラフで思考・判断することは苦手傾向にある。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかみる。   |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる。                               |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析   |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で学習した内容を、さらに深め次の学習につなげようとする意欲的な傾向はある。しかし、自分の考えを上手くまとめて発表することが苦手な傾向があるため、全国平均をやや下回る結果となっている。</li> <li>・家庭等での学習時間は増加傾向にある。また、読書に興味を示す生徒が多い。しかし、読書できる時間がなかなか確保されていないので次への課題としたい。</li> <li>・自己肯定感が高く、学校へ来ることを楽しいと答える生徒は多い傾向にある。</li> <li>・ICTを活用した授業の確立は今後の課題である。</li> </ul> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・表現する力を育成することにより、人とのコミュニケーションを円滑にはかる機会が増える。そのためにも、基礎学力の定着と学ぶ楽しさを味わえる授業展開を目指していく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・朝食をとって登校する生徒が増えるように、日々の生活習慣のリズムの重要性を訴え、生活の見直しのできる生徒の育成を目指す。